

障害児と遊びテーマ

NPOが
講演会 親子ら大切さ考える

駿河区



「ホスピタル・プレイ」について学んだ講演会
＝静岡市駿河区の県立大短期大学部

重症心身障害児者の居場所づくりなどに取り組むNPO法人「ぴゅあ」(西沢浩子代表)は6日、「障害児と遊び」をテーマにした講演会とワークショップを静岡市駿河区の県立大短期大学部で開いた。福祉、医療関係者や親子ら約70人が参加し、子どもの発達に大きく関わる「遊び」の大切さを考えた。

NPO法人日本ホスピタル・プレイ協会理事長で、同学部の松平千佳准教授が医療現場で実践される「ホスピタル・プレイ」について講演した。注射や採血、治療の説明に遊びの要素を取り入れることで、「子どもたちは安心感を得て、医療との関わりを肯定的に捉えることができる」と効果を説明した。

ワークショップでは、参加者が砂場遊びやボールプール内でのそり遊びなどを体験した。西沢代表は「重度の障害がある子どもも大人も楽しんでいた。遊びの可能性を感じた」と話した。

＝静岡市駿河区のシンメッセ静岡

では担当者が来場者に